

第 17 回 AUE アカデミックカフェ (2019 年 7 月 29 日)

愛知県の学校方言「放課」の誕生—標準語成立のプロセスと方言化—

中田敏夫 (名誉教授)

はじめに

愛知県下にみられる「放課」ということばは、次の 2 点において実に奇妙なことばである。一つは、何故標準語では「放課後」があるのに、「放課」とは言わないのか、もう一つは、「放課」(休み時間)は、何故愛知県に限った使用なのかという点である。ただし後述するが、「下校」を意味する「放課」は東北・北海道地方を中心に使用はみられる。

ここでは、明治期の標準語の状況、「学校方言」の成立などについて事例を紹介しながら、愛知県下の「放課」の成立を考えることで、この疑問に答えていくことにする。

1. 明治期の標準語

上田萬年 (帝国大学教授) が標準語の要件として以下を提示したことは有名である (『国語のため』明治 28 年)。

- 1 標準語とは、「全国内至る処、凡ての場処に通」じ、「一国内に模範として用ゐらるる言語」。
- 2 標準語は、「一個の方言」が「人工的彫琢を蒙」って、「超絶的の地位に達し」た理想的なもの。
- 3 標準語は、「実地に話され得べき」あるいは「何処かに現在話され居る者」であり、地位の鞏固のために「文章上の言語」となることを要す。
- 4 現今の東京語が標準語の資格を供えると考えるが、「ベランメー」言葉のようなものではなく、「教育ある東京人の話すことば」であり、標準語の資格を得るためには「今少し彫琢を要す」。

明治 28 年段階でこのような要件が提示されたのは、実際に「標準語」として個々の語彙・文法形式が定まるには時間を要したからである。実際国定読本として、全国の尋常小学校で一斉に使用をすることになった第 1 期『尋常小学読本』(イエスシ読本) (明治 37 年刊) で用いられた用語でも、否定辞「ない・ん」、語彙「いる・おる」の揺れがみられた。

語彙の場合特に、標準語として認定されるためには、社会的な一定の認知が必要であろう。例えば現在であれば、新聞・TV などのマスコミ、あるいは教科書のことば、または国語辞典での掲載などとなる。

一つの例として、「黒板消し・黒板拭き」を考えてみよう。現在若者を中心に「黒板消し」が使われるが、『広辞苑』最新版 (第 7 版 平成 30 年) でも、「黒板」の項目に「一・拭き」が挙げられているのみであり、「一・消し」は依然として掲載されていない。つまり『広辞苑』は「黒板拭き」を現時点では標準語として認定していると考えられる。では、明治時

代、学制がしかれ一斉授業が動き出したとき、アメリカから「黒板」が移入され、黒板に書かれた文字を消す用具はどのような名称が用いられたのだろうか。例として、長野県松本市旧開智学校所蔵資料から、筆者が作成した資料1を参照いただきたい。ここには「(一・)ぬぐい」「一・ふき」が使われていること、並びにこの短い期間に用語が揺れていることがわかる。「黒板消し」はみあたらない。なお、「黒板」についても、「ぬりいた」あるいは「とはん」が「こくばん」と揺れた形で現れることがみてとれる。

2. 学校方言

方言は、大きく地理的要因と社会的要因で生まれると考えられる。これら要因の背景には人と人の接触がどの程度あるかということがある。江戸時代、「藩」の中で庶民は暮らし、婚姻も原則「藩」ないしはさらに小さい共同体内で成立していたので、藩の境界などがことばの境界（方言の違い）になっていた。このような社会的要因は現代では、子供たちの通う「学区」ということが一つある。

愛知県一宮市の学校方言「屋運（おくうん）」を例に挙げる。図1は、昭和22年から38年生まれ、図2は昭和40年から59年生まれの方に聞いた「体育館」の言い方である。昭和30年の町村合併前の旧市内に色付けしてあるが、オクウンという呼称は、図1では一部を除き旧市内に限られることがわかる。それが次の世代では図2にみるようにオクウンが広がっていることがわかる。設置基準上体育館は「屋内運動場」と呼ばれていたが、その屋内運動場の「おくー」と「うんー」を融合して作ったと考えられ、このような造語は愛知県下の他市町村ではみられない。旧一宮市内で自然発生的に生みだし、そして市内で広げたものと考えらる。実は一宮市から遠く離れた山口県防府市のいくつかの小中学校でも「おくうん」ということばが使われている。やはり「屋内運動場」をベースに「おくうん」を生んだものと思われる。このような情報はほかに得ていないが、一宮市と防府市に限らず、日本どこでも十分起こりうる生成だろう。

このような学校方言は、方言意識に乏しく、いわば「気づかない方言」と呼べる。そしてこのような気づかない方言は、どこの地域でもあるものである。愛知県ではほかに、B紙（模造紙のこと、県下広く）、土間（どま、昇降口のこと、名古屋市内を中心に）・脱履（だつり、昇降口のこと、江南市を中心に）、分団登校（県下広く）、リカバー（再履修のこと、愛知教育大学に限る）などの学校用語が認められる。

3. 「放課」の歴史

明治期を迎え、学校教育制度の始まりと共に、新しい学校教育に関わる用語が次々に誕生した。上記の「黒板」「黒板拭き」はその一例だったが、授業と授業の間の「休み時間」も同様である。現在は「休み時間」ないし「休憩時間」であるが、明治期の最初期の資料には次のようになっている。

・田中不二磨『理事功程』（明治7年）

放課時間ハ生徒一人タリ尤教場ニ留滞スルヲ許サス

放課中ハ生徒随意ニ運動シ得ルト雖モ喧嘩口論シテ相争闘シ(以下略)

- ・杉浦景俊『改正小学生徒必携』(明治7年初版)

放課の時限は、生徒の教場に留まるを禁じ(以下略)

放課の時限は、必ず教場の総戸を開き清浄の空気を通過せしむべし

- ・『元宿学校裁縫場 裁縫場規則』(明治14年)

第六條 授業時間ハ毎日午後ヨリ四時間ニ定ムト雖モ(中略)但シ一時間ノ放課ヲ与フベシ

「休み時間」としての「放課」の使用例は、明治期から大正期に入っても小説などにみられた。

- ・寺田虎彦『森の絵』(明40)「放課のベルを待ち兼ねて学校を飛び出し、」
- ・泉鏡花『朱日記』(明44)「十時の算術が済んだ、放課の時だ。」
- ・折口信夫『神道の史的価値』(大11)「放課・休日に於る小学校の運動場の如く」
- ・宮本百合子『地は饒なり』(大7)「一日中で一番長い放課時間に、彼女は・・・」
しかし、徐々に「休み時間」にとってかわられ、「放課」は使われなくなっていった。
- ・土田耕平『騎士屋』(昭和3年)「休み時間には一人教室へ残って、」

これには、「放課後」ということばが現れたこととも関係していよう。早くには、『埼玉教育雑誌』「雑纂」(埼玉県私学教育会第21号 明治18年6月)の例が拾える。

裁縫生は六十名なるを一名の教師之を二類に分ち起業前と放課後とに教授せり

また、文学作品などにも「放課後」は使われるようになる。

- ・『読売新聞』(明42年7月23日)

東京市各小学校に於ては放課後に於る児童の取締に就き(後略)

- ・夢野久作『東京人の墮落時代』(大14)「男学校の放課後を借りて授業を続けた」
全国では「放課」は「放課後」の誕生とともに「休み時間」の意では使わなくなるが、一方、東北・北海道中心に、「放課」は「下校」の意味で現在でも用いられ続けている。

- ・新潟県加茂市立石川小学校 2019年7月24日1学期終業式

今日は3時間目に、1学期の終業式を行いました。(中略)最後に、教室そうじや玄関のそうじを行い、放課となりました。<http://kamiyama-es.agano.ed.jp/old/index.html>

以上、学校教育の誕生とともに生まれた「放課」はもともと「課(授業)を放つ」ことを指したが、その変遷の中で「休み時間」の意として用いられ、あるいは「全授業が終える」意として「下校」の意に、あるいはその時間帯として「放課後」という形が作られたことがわかった。

おわりに

「はじめに」で述べた疑問に、明治期の標準語、学校方言の成立の概略を紹介しながら答えてきた。表題に「方言化」という熟さないことばを用いたが、社会的に標準語と認知

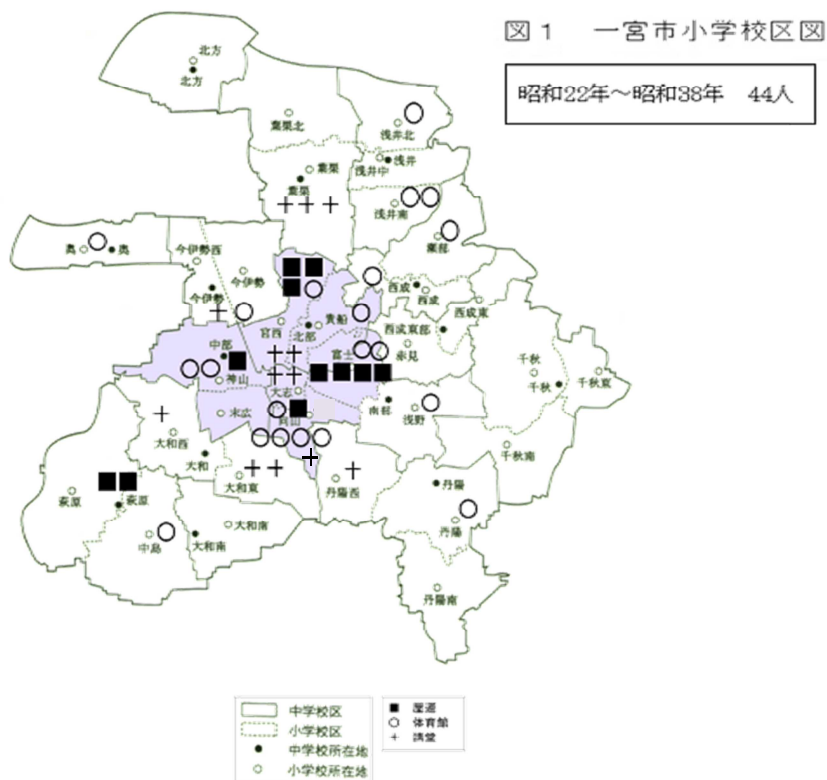
された位置から、方言だったり、特定の世代でのみ使われるコーホート語だったりの位置に移ることはことばの宿命である。「黒板消し」はいずれ『広辞苑』で登録され、「黒板拭き」が消え去ることになるであろう。そしてその段階で「黒板拭き」はコーホート語の位置になることになる。もし特定の地域で「黒板拭き」を使い続けたらそれは方言の位置になることになる。つまり、「放課」は大正期から昭和期にかけて「放課後」のことばの一部として生き延びた際に、愛知県では「放課」を依然として使い続けた結果、愛知県では方言の位置になったのである。それを「方言化」と称したが、それはことばの変遷のなかで普遍的な側面であった。

参考資料

- ・屋運（おくうん）」の成立 ―愛知県一宮市内における屋内運動場名の背景―（『国語国文学報』第 68 集（愛知教育大学） 平成 22 年 3 月）
- ・愛知県一宮市の「屋運」の分布（共著 『愛知教育大学研究報告（人文・社会科学）』第 63 輯 平成 26 年 3 月）
- ・「黒板拭き」に関する用語の変遷（共著 日本方言研究会第 93 回研究発表会レジメ）

資料1 旧開智学校所蔵資料「黒板」「黒板拭き」

年代	資料名	言葉
1 明治14年4月	引渡目録 開智学校	塗板拭き
2 明治14年5月	同書 器械目録 開智学校	塗板 塗板拭き
3 明治14年5月	同書 器械目録 開智学校	大塗板 小塗板 フキ物
4 明治15年5月	引渡目録 開智学校	塗板 塗板拭き
5 明治15年5月	同書 女学支校之分として	塗板 板ヌグヒ
6 明治15年	引渡目録 開智学校	板ヌグヒ
7 明治15年5月	器械目録 開智学校	塗板 塗板拭き
8 明治15年	器械目録 開智学校	塗板 板拭き
9 明治16年1月	教壇漆物帳	塗板 塗板拭き 黒板拭き
10 明治17年7月	書籍器械目録 開智支校	塗板 拭きモノ
11 明治17年7月	器械目録 開智学校	塗板
12 明治17年	(教壇漆物帳 書籍・器械借用証)	塗板拭き
13 明治17年 5月 題へ	贈本 器械目録 開智学校支校	塗板 塗板拭き
14 明治17年	器械目録	塗板
15 明治19年	<書籍器械目録>	塗板
16 明治19年	学校器具・器械書籍目録 深志学	教授用塗板付拭き
17 明治19年3月	書籍器械目録 渚学校	塗板 塗板フキ
18 明治19~25年	<書籍器械目録>	塗板 黒板拭き 塗板拭き
19 明治19~25年	<書籍器械目録>	塗板 塗板拭き
20 明治25年	書籍目録 <中林支校>	塗板
21 明治27~31年	備品漆物帳 松本尋常高等小学	塗板拭き 塗板拭き 黒板拭き
22 明治31年	備品貸渡簿 松本尋常高等小学 校 男子部	塗板拭き
23 明治33年~36 年	備品貸納簿 松本尋常高等小学 校 男子部	拭物
24 明治35年	小学校用器具 東筑摩教育品研 究所報告	紙製小黒板・廻転黒板
25 明治37年	物品備品台帳 松本小学校	塗板 小黒板
26 明治38年	備品台帳 松本尋常高等小学校	塗板
27 明治39年	物品備品台帳 松本小学校	塗板
28 明治41年	教育参考目録	小黒板 紙製小黒板 塗板
29 明治43年	器具備品台帳 松本小学校男子	黒板 小黒板 塗板拭き 小塗板
30 (明治39年)	(備品目録)	塗板拭き 塗板
31 大正5年	備品受払簿 松本市役所	塗板拭き
32 大正8年	備品受払簿 松本小学校	塗板拭き
33 大正9年	備品受払簿 松本小学校	塗板拭き
34 大正10年	備品受払簿 松本小学校	塗板拭き
35 大正11年	備品受渡簿 松本市小学校	塗板拭き
36 大正11~15年	(備品台帳)	塗板拭き
37 大正14年	備品受払簿 松本尋常高等小学	塗板拭き
38 昭和4年9月	小学校設備の視察概要 松本尋 常高等小学校開智部	五線塗板(唱歌室) 塗板(手工室)
39 昭和4年	備品台帳 6 開智部	月歴用塗板 時間割板
40 昭和4年12月	物品廃棄簿<井川部ほか>	塗板 小黒板 塗板拭き
43 昭和4~5年	教室用具・運動用具備品台帳 2 開智部	塗板 小黒板 黒板拭き
44 昭和5年	一般校具備品台帳(開智部)	五線用塗板(唱歌室用)月歴用塗板
45 昭和5年	物品廃棄簿<田町部>	黒板
46 昭和6年	同書	塗板拭き
47 昭和6年	同書<清水部>	塗板フキ
48 昭和6年	同書<源部>	塗板 グラフ塗板
49 昭和6年	備品台帳整理要綱 昭和六年三 月 松本市松本尋常高等小学校	塗板 小塗板
50 昭和6年	(同上 修正版)備品台帳整理要 項 松本尋常高等小学校...	塗板 小塗板
51 昭和6~29年	校具備品台帳(一般校具) 松本 市立開智小学校	五線用塗板(唱歌室用 昭4受入 以下同じ) 塗板(裁縫用 昭5) 五線引音楽 室用 黒板大(昭16) 塗板(昭21・23) 五線用塗板(昭24) 小黒板(昭5・7・23・ 25) 月歴用塗板(昭4)
55 昭和11年	教具カタログ『教具型録』広栄堂 文舎 広島市南竹屋町	塗板 小塗板 唱歌用耐久塗板 ペニヤ製小塗板 紙製グラフ塗板 グラフ 教授用塗板
56 昭和31~44年	備品台帳 道徳科・国語科	漢字学習黒板(昭39購入) 黒板ローマ字表(昭32購入) 作文指導用黒板(昭 33・38) 黒板(昭36) 漢字黒板(昭36・37・38) ローマ字黒板(同)
58 昭和37年	設備備品台帳	黒板
59 昭和40年	備品台帳 一般校具	小黒板(摘要 大黒板 旧保健室)
60 昭和40年	同 簿冊 田町小算数目次	グラフ塗板(昭和40年6月26日購入) グラフ指導板(同) 教授用時計長黒板 (記載なし)
61 昭和40年	一般校具備品台帳(開智小学校・ 田町小学校)	黒板(昭和35年購入) 小黒板(昭和31年購入) 五線用黒板(不明) 月歴用 黒板(昭和31年)
62 昭和40年	同 簿冊 田町小学校分	黒板(昭和36年購入) 音楽用五線黒板 方眼黒板 小黒板
71 昭和24年	教室備品 新村小学校	小黒板 大黒板
72 昭和24年	新村小学校 算数理科	グラフ黒板(算数)



一宮市の小中学校校区図 (出典 新学制50周年記念 一宮市小中学校誌)



一宮市の小中学校校区図 (出典 新学制50周年記念 一宮市小中学校誌)